

令和6年10月26日（土）、滋賀県彦根市において、関西慶應寮和会第25回定例懇談会が開催されました。天候が心配されましたが、幸い雨天とはならず、計13名（会員12名、ご家族1名）により実施に至りました。

＜出席者＞ 12名（会員のみ・敬称略）

山本（S38経） 酒井（S42法） 松尾（S47経）
 小川（S49工） 青嶋（S52工） 松永（S58工）
 松谷（S60理） 阪本（S61商） 小堀（S63商）
 竹崎（H02法） 兵藤（H10理） 小野（R03文）

I 第1部 彦根城、玄宮園、埋木舎見学（13:00～17:00）

今回は2012年の設立総会以来となる滋賀県での開催、2027年の世界遺産登録を目指した活動を展開している彦根城の見学を通じ、会員相互の親睦を図りました。

まず彦根城。1604年（慶長9年）から約20年かけて完成した近世城郭です。井伊家が14代にわたって城主を務めた別名「金亀城」（こんきじょう）は、姫路、松本、犬山、松江の各城とともに、国宝に指定されています。

ガイドボランティアの方に案内いただきながら、石段に歩を進め、重要文化財の櫓や門をくぐり、国宝の天守からの絶景を臨みました。

続いて玄宮園（げんきゅうえん）。4代藩主の直興が造営したとされる庭園です。江戸文化の贅を尽くした名園は、唐の玄宗皇帝離宮を参考に、「近江八景」を模しています。

この後、園内茶室鳳翔台での小休憩組と、ひこにゃんを愛でる表御殿集合組とに、いったん分かれることとなりました。



ご存知ひこにゃんも一緒に天守前での全員集合



天秤櫓



玄宮園（げんきゅうえん）

再合流したのは埋木舎（うもれぎのや）。直弼が青年時代を過ごした屋敷跡です。

席子であった直弼は「世の中をよそに見つつも埋もれ木の埋もれておらむ心なき身は」と和歌を詠み、自らこの名を付けたこの質素な舎で、文武両道の修練に励みました。

NHK大河ドラマの記念すべき第1作「花の生涯」はこの舎を舞台にした物語です。二代目尾上松緑が直弼を演じた本作ですが、ほぼ全編映像が現存していません。「埋木の殿様」の生涯について、史実のみならず、それがドラマでどのように描かれたのか、二重に想像を膨らませる経験となりました。



埋木舎（うもれぎのや）

Ⅱ 第2部 年次総会&懇親会（17:00～19:00）

見学の後は、「近江や」（滋賀県彦根市）に今しばらくの歩を進め、年次総会を兼ね懇親会が開かれました。

青嶋会長の挨拶、久々ご参加の小川さん、差し入れをいただいた兵藤さん、遠路博多からいらした小野さんより近況報告をいただきながら、いつもながらの宴席を楽しみました。



世代を超えた楽しい宴席です

Ⅲ 編集後記

「あふみの海 磯うつ波の いく度か 御世にこころを くだきぬるかな」

今回の見学で最初に案内いただいたのは井伊直弼の歌碑でした。

「琵琶湖の波が磯に打ち寄せるように、世のために幾度となく心を砕いてきたが、わたしは国の平和と安心のため国政に全身全霊を尽くしてきたので、悔いはない」

この句を記した2ヶ月後、桜田門外の変が起こり、直弼は凶刃に倒れます。その時満45歳でした。

「45歳でこの境地に至るのか」と驚きつつも、江戸時代の平均寿命は諸説あれど概ね30歳代、相当長寿だった直弼と比べ、平均寿命80歳代の時代に生きる者にはまだまだ学びの時間が残されているのだと、前向きに受け止められればと思います。

「悔いはない」という境地に少しでも近づけるよう、会員の皆さんとともに生涯学んでいければと思った次第です。

今回も皆さまお元気にお集りいただくことができました。次回もまた健康な姿で再会できるよう心より願っております。

今後も楽しく有意義な活動を続けていく所存ですので、これからもよろしくお願いいたします。



井伊直弼歌碑

以上